

【森林研究部門】

長崎県産ヒノキ板材の圧密加工技術の開発

(県単 平 25～28)

ヒノキ材の圧縮固定に有効な温度と時間の絞りこみをおこなった。150℃以上で10分固定し、その後10日間養生することにより、材の厚さは安定する。

圧密処理したヒノキ材を学童機の天板に加工して、機の持続垂直荷重試験及び機の垂直力強度試験を実施した。両試験の結果、使用上支障のある欠陥や破壊はみられなかった。

(溝口哲生)

森林情報解析

(県単 平 27～)

地域森林計画を樹立する森林計画区において、当年と5年前の2時期の衛星画像を用いて植被率の変化を解析し、新たに発生した森林伐採地を抽出した。

平成28年度は五島・壱岐森林計画区で抽出した森林伐採地の位置情報を森林地理情報システム(GIS)で取り込める形式のデータとして作成し、林政課に報告して調査業務における現地調査の効率化を図った。

(古村善則)

原木シイタケ品質向上・発生量増加のための被覆技術の開発

(県単・国庫 平 26～29)

1) 被覆によるほだ化率向上試験

植菌後、被覆したほだ木の菌の伸長状況を調査した。5月初めには大きな違いが見られ、被覆したほうが菌の伸長は大きかった。

2) 雨除け被覆による品質向上試験

雨除けには、大きな違いが見られた。被覆しない場合、乾燥歩留まりが小さく、含水率が高い。

3) 冬期(乾燥期)における被覆によるシイタケ増収試験

冬季での被覆では、被覆の効果により、色合い・形がよくなる時と、水分が多く黒っぽくなる場合があり、被覆スケジュールが難しいことが判った。

(古村善則)

優良種苗確保対策

(県委託)

林業用種子の発芽検定を行った。結果は以下のとおり。

表 1. 発芽検定の結果

樹種	採種年度	発芽率 (%)	1,000粒重 (g)	備考
ヒノキ	H28	4.8	2.06	5%以下
スギ	H28	10.8	3.42	-
クロマツ	H28	75.0	15.35	-

(深堀惇太郎)

ヒノキ丸太の含水率推定方法

(県単 平 28)

センター内のヒノキ7本を伐採して、そこから根元材を4本、1m材を11本、2m材を14本、3m材を14本得て、平積みでの天然乾燥試験を実施した。すべての試験材の含水率の平均は91.8%であった。丸太の重量を経時的に測定することと併せて、簡易に丸太の含水率を把握するための方法として、応力波伝播速度を用いて、含水率の推定を行った。

(溝口哲生)

五島ツバキ活性化対策事業

(県単 平 28～29)

1) ツバキ実結実促進技術の開発と普及

平成26年度に設置した試験区の調査を行い、その結果では、結実促進の大きな成果は得られなかった。結実には、剪定後翌々年にその成果が得られることから、引き続き調査を実施する。

2) ツバキ生育障害対策技術の開発と普及

ヒノキバヤドリギの防除方法の試験区を設定した。ヒノキバヤドリギについては、駆除が進んでおり、典型的な試験区を設定することが困難な状況になりつつあるが、遮光法の効果とマシン油による駆除について試みた。

マシン油については、冬期の試験であったため効果が得られなかったため、呼吸量の多い夏期での調査が必要である。

3) ツバキ油保存技術・搾油技術等の技術移転

マニュアルを作成し、報告会を開催した。アグリビジネスフェアでは、各種ツバキ油を展示し、深煎ツバキ油のサンプルを配布した。

五島のツバキ油関係者には、油の特性や保存方法、簡易判定方法など一定の理解が得られたため、今後とも普及活動を続けていく必要がある。(田嶋幸一)

ハラン林間栽培における葉の品質決定要因の解明

(県単 平 28)

県内ハラン林間栽培地において、成立密度、相対照度、青葉率等の現地調査および施肥等管理状況の聞き取り調査を行った。施肥の有無、植栽樹種、立地条件、植栽密度等によって葉丈および葉の発生枚数が異なる傾向を示すことが明らかになった。

(葛島祥子)